

一般質問通告書

佐野市議会議長 様

		受付	番号 16
			令和 6年11月28日
			午前・午後 2時20分
議会名	令和 6 年 第 6 回 佐野市議会定例会		
発言者	議席番号 11 番	菅 原	達
答弁を求める者 (選択してください)	市長・副市長・教育長・担当部局長		
一般質問時に使用する資料の有無 (選択してください)	あり なし	資料提示	資料配付・モニター使用
大項目 (質問項目) 中項目 (質問細目)	小項目 (具体的な質問内容)		
1. フェーズフリーの推進について			
(1) 移動診療車の導入について	① 奈良県宇陀市に導入されている移動診療車は、平常時に「へき地医療」を支えるだけでなく、災害時の避難所診療や、他の被災地域への医療支援にも活用できる。フェーズフリーの取り組みとして、本市への導入を検討してはいかがか、伺いたい。		
(2) プラグインハイブリッド (PHEV) 車の導入について	① 公用車に電気自動車 (EV車) は導入されているが、災害など長期停電時の電源確保のためには、蓄電機能に加え発電機能も必要だが、それを備えたプラグインハイブリッド (PHEV) 車であれば災害時に避難所などで活用できる。フェーズフリーの取り組みとして、本市への導入を検討してはいかがか、伺いたい。		
(3) 被災者支援システムの導入について	① 平成29年12月定例会並びに、令和2年6月定例会の一般質問で取り上げた、西宮方式 (地方公共団体情報システム機構が無償で公開・提供) による「被災者支援システム」は、災害時に「被災者台帳」の作成等に活用するだけでなく、「避難行動要支援者管理システム」と合わ		

	<p>せて導入し、日常的に福祉関係の情報を蓄積することで、災害時の救援活動に役立てられることが期待される他、平常時における給付金の給付システム等にも活用できる。フェーズフリーの取り組みとして、本市への導入を検討してはいかがか、伺いたい。</p>
<p>(4) 屋内運動場（体育館）の断熱について</p>	<p>① 令和6年2月定例会の一般質問で、学校施設における断熱改修について伺った際、「各学校の施設の状況を調査しまして、空調設備の整備と断熱性能確保の工事のインシヤルコストのみならず、今後の維持管理をしていく上でのランニングコストも含めてライフサイクルコストの低減が図れるよう見極め、効果的、効率的でかつ最適な空調機器の整備についてしっかり検討してまいりたい」との答弁であったが、その後の進捗について伺いたい。</p> <p>② 屋内運動場（体育館）における断熱改修の重要性については、ランニングコストの低減とCO2削減による環境負荷の軽減にあり、学校施設がカーボンニュートラルの取り組みを率先することで、市民への啓発にも繋がるものだが、加えて、空調機器の導入により平常時における快適な運動環境の確保や、災害時の避難所としての環境の改善の効果が期待されることは以前から指摘してきたところである。</p> <p>しかし、災害時は長期的な停電も起こり得ることから、空調機器が使用できないことも想定される。フェーズフリーの考え方に沿うと、停電という非常時の為だけに非常電源を確保するよりも、平常時にも効果をもたらす断熱改修が望ましいと考えるがいかがか、伺いたい。</p>
<p>(5) 社会保障のフェーズフリー化について</p>	<p>① 「災害はある地域にたまにしか来ないもの」であるため、全ての災害対応を自治体だけで担うのは難しい。また、被災による困難な状況が、災害に因るものだけでなく、高齢や要介護などの平常時の脆弱性にも因ることから、高齢者や</p>

	<p>障がい者の介護、生活困窮者の自立支援など、日常的に社会保障の担い手として働く人や組織が、平常時の個別避難計画の策定に携わる他、非常時に被災者支援にも取り組むという「社会保障のフェーズフリー化」を目指すべきと考えるがいかがか、伺いたい。</p>
<p>(6) 自主防災組織のフェーズフリー化について</p>	<p>① 自主防災組織の実効性を高めるためには、災害時に備えた組織であっても平常時の活動が大切である。例えば、平常時は一人暮らしの高齢者や、支援の必要な方々の見守り活動を主とし、年に何回かは避難訓練を実施するなど、防災と福祉の要素を融合することで、平時において負荷価値を高めた活動とし、災害時には顔の見える関係性や、蓄えられた地域の情報が、防災にも生かされるようにするものであり、このような「自主防災組織のフェーズフリー化」を目指すべきと考えるがいかがか、伺いたい。</p>
<p>(7) フェーズフリーによる街づくりについて</p>	<p>① 災害時に炊き出しのできる屋台を、平常時にラーメン屋台などに活用し、「屋台横丁」として街中の観光資源にしたり、子どもたちと一緒に、自然の中でデイキャンプを通し防災を学ぶ「防災キャンプ」を、防災教育と観光誘客を目的に企画するなど、フェーズフリーによる街づくりを検討してはいかがか、伺いたい。</p>
<p>2. 児童発達支援の課題と改善について</p>	
<p>(1) 利用日数について</p>	<p>① 利用日数の制限は設けていないと言うが、支援員と相談して利用日数を決めても、月に5日を超えては認めてくれないのが現状である。</p> <p>子どもの状態によって、また、医師の助言が無くても、現場の状況判断により柔軟に利用日数を変更できることも含め、利用日数5日の壁を撤廃すべきと考えるがいかがか、伺いたい。</p>

<p>(2) 保健師による個別支援の充実について</p>	<p>① 入園時に受け入れを断られることのないよう、また、先の見通しが立たない不安を保護者に与えないよう、保健師の判断で療育の必要性などについて助言をしていただくなど、保健師による個別的な支援をもっと積極的に、かつ、充実させるべきと考えるがいかがか、伺いたい。</p>
<p>(3) 医療的ケア児に対する訪問看護の必要性について</p>	<p>① 療育の事業所や教育の現場における医療の必要な子どもに対しては、療育や就学の中で訪問看護によるケアが必要であるが、現状と課題について伺いたい。</p> <p>② 医療的ケア児に対する訪問看護の必要性について伺いたい。</p>
<p>(4) 公的な受け皿の設置について</p>	<p>① 医療の必要な子どもなど、ハイリスクの子どもに関しては、受入れの難しさや訪問看護の配置と派遣の課題など、民間だけでは対応できない問題であり、人材の確保や費用面での負担などを公的に賄い、包括的な受け皿として設置すべきと考えるがいかがか、伺いたい。</p>